

# 奈良県内の3つの世界遺産

WORLD HERITAGE SITES IN NARA

## 法隆寺地域の仏教建造物

1993年文化遺産登録

「法隆寺地域の仏教建造物」は、1993年に日本で初めて世界遺産に登録されました。奈良県斑鳩町にある法隆寺と法起寺の木造建築群で構成され、わが国の仏教寺院建築の変遷の様子を知る上で、貴重な歴史的財産として世界遺産のひとつに選ばれました。法隆寺は現在、東院と西院の二つの伽藍からなり、8世紀以前に建てられた多くの木造建築が現存しています。東院では八角円堂の夢殿が、西院では高さ約32mの五重塔と釈迦三尊像などを安置する金堂が、回廊で囲まれる配置になっています。中でも西院の建物の数々は、7世紀後半から8世紀初頭にかけて建造された現存する最古の木造建築で、その点が世界遺産に欠かせない価値として高く評価されました。聖徳太子の子である山背大兄王ゆかりの法起寺の三重塔は、法隆寺西院の建造物と共通の特徴を持つ、わが国最古の三重塔です。



- 1 西院伽藍(さいいんがらん):世界で最も古い現存木造建築群。南北に中門と大講堂を構える回廊内に、中門から入って右に、「エンタンス」と呼ばれる胸部の膨らんだ柱で飛鳥時代の様式を伝える金堂が、左に高さ約32mの五重塔が建つ。
- 2 夢殿(ゆめどの):東院伽藍の中心に建つ八角円堂。聖徳太子を偲び、太子の住まいだった斑鳩宮跡に建てられた。名前は、太子がここで瞑想した際に仏が現れたことに由来する。観音菩薩立像をはじめ、3体の国宝の仏像を安置する。
- 3 聖霊院(しょうりょういん):西院伽藍の回廊東側に建つ、聖徳太子を祀る堂。平安末期に東堂の一部を改築して建てられた。安置されている木造の聖徳太子像は国宝。法隆寺の重要な行事であるお会式が毎年3月22~24日に執り行われる。
- 4 西円堂(さいえんどう):西院伽藍の北西、少し小高い場所にあることから、「峯の薬師」と親しまれる国宝の薬師如来像を安置する八角円堂。像の周りには十二神将像を取り囲み、東面に千手観音像、北に不動明王像が控える。
- 5 法起寺三重塔(ほうきじさんじゅうのとう):聖徳太子の遺志を受け、子である山背大兄王が太子の宮である岡本宮を寺にしたとされる。東に塔、西に金堂といった法隆寺とは逆の伽藍配置だった。高さ約24mの国宝の三重塔は、現存の三重塔としては最古である。

## 古都奈良の文化財

1998年文化遺産登録

1998年に世界遺産登録された「古都奈良の文化財」は、東大寺、興福寺、春日大社、春日山原始林、元興寺、薬師寺、唐招提寺、平城宮跡の8つの資産で構成されています。奈良時代(710-784)の都が平城京で、その跡地からは、政治・儀式の場である大極殿、南北を貫く朱雀大路などの遺構が見つかっています。8世紀に建造された建物が現存する薬師寺や唐招提寺をはじめとする寺院の数々は、仏教建造物の歴史的経緯を知る上で、貴重な資産で、戦による被害などのあった東大寺にも、一部創建当初の建物が残されています。春日大社とその聖域である春日山原始林は、わが国ならではの神道思想の潮流を今に伝えてくれます。世界遺産に選ばれるにあたり、8つの構成資産が、こうした政治、文化、歴史的な価値に富んでいるのに加え、奈良時代の伝統が今の奈良の人たちの生活に色濃引き継がれていることも、高く評価されました。



### 1 東大寺

仏教による国の鎮護を願った聖武天皇の発願により創建。752年、像高約15mの盧舎那大仏の開眼供養が行われた。江戸中期に再建された間口約57mの金堂(大仏殿)は、木造建造物としては世界最大規模。



### 2 興福寺

藤原鎌足ゆかりの寺で、710年の平城京への遷都の際、現在の地に移され、興福寺と名付けられた。いずれも国宝の北円堂・三重塔・東金堂・五重塔は後の時代の再建ながら、建立当時の形式を色濃く残している。



### 3 春日大社

社伝によると768年の創建とされる。春日神と呼ばれる四柱の主祭神をそれぞれ祀った四棟の御本殿は、神社本殿建築を代表する春日造で国宝。御本殿を取り囲む回廊や中門、南門なども含め、国宝、重要文化財の数は28件31棟にのぼる。



### 4 春日山原始林

春日大社の東側の一部、春日山は841年から聖域として保護されており、その原始性を保った自然は同大社の歴史・文化的要素として欠かせない要素となっている。1955年、特別天然記念物指定。



### 6 薬師寺

天武天皇の発願を受け、後を継いだ持統天皇が藤原京に建立。平城京への遷都に伴い、718年に現在の地に移った。730年建立の東塔は、三重塔ながら、各重に庇状の構造物である装飾が付く独特の形式で国宝。写真提供:一般財団法人 奈良県ビジターズビューロー



### 7 唐招提寺

唐の高僧・鑑真和尚によって759年、戒律を学ぶための寺として創建された。宝蔵、経蔵、鼓楼など、境内にある5棟が国宝で、中でも金堂、講堂は創建された奈良時代の様子のまま残されている。



### 8 平城宮跡

710年に唐の長安をモデルに造られた平城京にあった宮城の跡。東西約1.3キロ、南北約1キロの広さ約120ヘクタール。これまでに、政治や儀式の場を執り行う大極殿、朝堂院などの遺構が発掘されている。

## 紀伊山地の霊場と参詣道

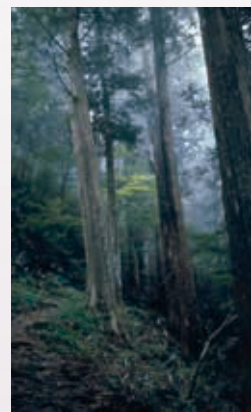
2004年文化遺産登録

「紀伊山地の霊場と参詣道」は、奈良県の「吉野・大峯」を始め、和歌山県の「高野山」、三重県の「熊野三山」といった3つの霊場と、それぞれを結ぶ「大峯奥駈道」「高野参詣道」「熊野参詣道」の3つの参詣道からなり、2004年に世界遺産に登録されました。このうち、奈良県の「吉野・大峯」では、世界遺産を構成する要素として、吉野山、吉野水分神社、金峯神社、金峯山寺、吉水神社、大峰山寺の6つ資産が選ばれています。さらに、大峯奥駈道と熊野参詣道小辺路のふたつを加えた8つの資産が奈良県には位置しています。標高1000mを越える急峻な山並みと奥深い森林からなる紀伊山地の北端の「吉野・大峯」一帯は、山岳修行で悟りを目指す修験道の修行場として古くから知られると同時に、「神仏習合」の聖地として信仰を集めてきました。自然と宗教が一体となった土地の古き伝統が、古代から今に継承されている稀有な資産として、高く評価されました。



### 1 大峰山寺

修験道の開祖といわれる役行者の建立とされる修験道の根本道場で、905年の文献で確認できる。標高1719mの山上ヶ岳山頂付近に建つ。



2 大峯奥駈道  
二大霊場の吉野と熊野を結ぶ、修験道の修行場として開かれた約170kmにおよぶ古道。標高1000mを越える急峻な大峯山脈の主線を貫く「雁(あひぎ)」と呼ばれる霊地や行場など75の遺跡が残る。写真提供:一般財団法人 奈良県ビジターズビューロー 写真:矢野達彦



### 3 熊野参詣道小辺路

高野山と熊野三山の二大霊場を結ぶ約65kmの古道。途中、標高1000mを越える峠が三つあり、険しいことで知られる。道中に遺跡、道標、石仏などが数多く残り、往時の雰囲気の色濃く残っている。



### 4 吉野水分神社

水司を司る天之水分大神(あめのみくまり)が主神として祀られる。「みくまり」が「みこもり(御守)」に転じ、子授けの神として信仰を集める。社殿は、豊臣秀頼による再建で、桃山様式の現存建物として貴重。



### 5 吉野山

古くから修験道の修行地として知られ、南北朝時代には南朝の都が置かれるなど、歴史上の事跡が多く残る。桜の名所としても有名で、絶頂期の豊臣秀吉も家臣ら約5000人を引き連れて花見をした。



### 6 吉水神社

元は役行者創建の修験道の僧房で、明治の神仏分離で神社になった。書院は、貴重な初期書院造り。源義経が静御前と一緒に身を潜めた。それに加え、吉野山での花見の際、豊臣秀吉が本陣を置いたなど歴史的な逸話が多い。



### 7 金峯山寺

役行者が開祖とされる修験道の根本道場の寺院。本尊の金剛蔵王権現を祀る蔵王堂(本堂)は、入母屋造り檜皮葺きの高さ34mで、東大寺大仏殿に次ぐ規模を誇り、仁王像を安置する仁王門とともに国宝指定されている。



### 8 金峯神社

吉野山の地神を祀る神社で、中世以降、修験道の修行場となった。源義経のゆかりの「隠れ塔」が残る。